

日本社会で活躍する日系ブラジル人

Key words

多文化共生社会、日系人、ライフヒストリー、二つの故郷

1 活用する主な展示および資料

- 展示映像「国内で活躍する日系人インタビュー」（増子利栄氏）
- 展示映像「Monica and Friends 日本とブラジル友情の絆」



2 教科・領域との関連性および総時間数

- 中学校社会科（地理的分野・公民的分野）
- 高等学校公民科（公共）
- 総合的な学習（探究）の時間
- 全7時間程度（事前2時間、見学2～3時間、事後3時間～）



©MSP-JAPAN

3 目標

- 日系人として来日した経緯や労働者および定住者として、日本の多文化社会の一員としてともに暮らしていることについて理解することができる。【知識・技能】
- 日系人のライフヒストリーに重ね合わせて共感的に学び考えながら、日本社会で活躍する日系人について考察している。【思考・判断・表現】
- 国籍やルーツに限らず、誰もが地域社会で活躍することのできる多文化共生社会の実現のための諸課題を主体的に追究しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

4 単元について（教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など）

グローバル化が進展する中、国家の枠組みを越えた人の移動が社会現象となり、多文化化が進行している。かつての日本は移民の「送り出し国」であった。昨今では移民の「送り出し国」から「受け入れ国」へ転換している。日本における在留外国人数は、2023年6月末現在、中長期在留者と特別永住者を合わせて約322万人である。特に、在日ブラジル人は、約21万人であり（出入国在留管理庁、2023）、大半が日本に繋がりを持つブラジル人であることが推察される。現在、日本国内における南米系外国人の集住地域は、愛知県、静岡県、群馬県の工業地帯を中心に形成されている。ブラジル日系社会では、家族単位を中心とした定住化も進んでいる。日系ブラジル人をはじめとした日系人や多くの外国人が地域社会には暮らしており、多様な文化や習慣が存在する。そこで、本単元では、「増子利栄氏のインタビュー映像」をもとに、日系人のライフヒストリーや日本社会で活躍する日系人、二つの故郷をつなぐ両国への貢献について、グローバルな人の移動に伴う地球的規模での相互依存関係（移民のグローバル化）の視点から、一国内における多文化の共生（移民の多様化）につなげて発展的に考えさせたい。

5 展開計画

流れ	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	留意点
事前学習	<p>【日本の多文化化と日系ブラジル人】</p> <ol style="list-style-type: none"> 日本国内の在留外国人の人数についてデータや資料などから知る。 <ul style="list-style-type: none"> ●中国、ベトナム、韓国、フィリピン、ブラジルの順に多い。 日系ブラジル人とはどのような人々か。 <ul style="list-style-type: none"> ●両親が日本人にルーツを持つブラジル人。 ●祖父がブラジル人。 「パステウは日系人？」を読んで理解を深める。 <ul style="list-style-type: none"> ●日系ブラジル人の魅力が少し分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●日本における在留外国人数をを用意する。 ●日本生まれ・日本育ちの外国人も増えていることを補足する。 ●「パステウは日系人？」（内山，2022）（資料1）を配布し、日系ブラジル人の背景について考察させる。
資料館見学	<p>【日本社会で活躍する日系ブラジル人】</p> <ol style="list-style-type: none"> 日本とブラジル友情の絆について知る。 <ul style="list-style-type: none"> ●「日本とブラジルの友情の絆」が分かった。 増子利栄氏のインタビュー映像から、①来日した理由、②日本社会の変化、③二つの故郷への恩返し視点について考察する。 <ul style="list-style-type: none"> ●父親から日本は素晴らしい国だと教育されてきた。 ●30年前、日本人は外国人をあまり良い目で見えていなかったが、現在は受け入れられるようになった。 ●東日本大震災の時には、日本に住むブラジル人を100人集め、1トン半の肉を持って炊き出しに行ったことから、増子さんたちは日本も故郷だと思っている。 日本で活躍する日系人の視点から、もう一度、館内を見学し関連する展示物を探し記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●展示映像「日本とブラジル友情の絆」を鑑賞し、両国における日本人移民や日系人の努力を共感的に捉えられるようにする。 ●展示映像「増子利栄さんのインタビュー」を鑑賞し、ワークシート（資料2）に三つの視点で気づいたことを記入させる。 ●「増子利栄さんのライフヒストリー」（資料3・4）を配布し、増子氏の軌跡をつかませる。 ●ワークシート（資料2）に、見つけた展示物を記録させる。
事後学習	<p>【誰もが地域社会で活躍できる多文化共生社会の実現】</p> <ol style="list-style-type: none"> 地域社会で活躍する日系人について探究する。 <ul style="list-style-type: none"> ●当事者に対面やオンラインを用いてインタビュー調査を行う。 ●インタビューをもとに、ポスター形式でまとめる。 ●ポスターを用いて発表会をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域に暮らす日系人にインタビューを行う時間を設ける。 ●日本で暮らす中で、抱えている課題についても調査し、課題の克服に向けてどのような取り組みが必要か考えるよう促す。

6 学習後の姿

本単元を通し、日本の多文化化の現状と日系ブラジル人について肯定的に捉え、日本社会で活躍する日系人について、ライフヒストリーや展示物・資料をもとに考察することで、誰もが地域社会で活躍できる多文化共生社会の実現のために追究する態度を育みたい。

7 授業づくりのための参考資料

- 内山夕輝(2022)「パステウは日系人？」 第三回 JICA 海外移住「論文」および「エッセイ・評論」授賞作品 (JICA 横浜 海外移住資料館主催)